救急車を必要としている人がいます

問消防本部警防課 0299-59-0119

あなたのかけた119番 本当に緊急ですか？

近年、救急件数が全国的に増加し、通報から救急隊の現場到着までの所要時間が全国平均で8分を超えるという統計が発表されています。

この件数増加の背景には、携帯電話の普及や核家族化による独居世帯の増加、主治医（かかりつけの医師）がいない病人の増加などが原因とされています。

また、救急車を呼ぶ利用者側のマナーにも変化が現れてきています。特に目立った症状も無く「なんとなく具合が悪い」といった内容や、「病院での待ち時間が長いので救急車で行きたい」さらには「タクシーだと料金がかかるから」といったものまで様々です。

本来、救急車とは緊急性のある患者を迅速に医療機関に搬送するための車両です。

緊急性のない要請に応じて出場すると、緊急性の高い重症患者の救急要請に出場できません。

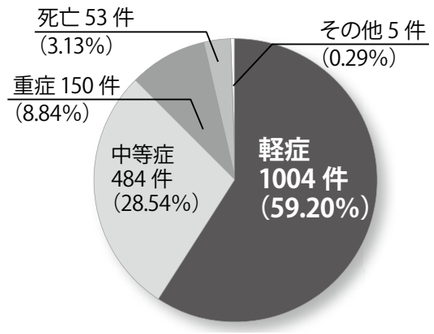
利用者側のマナーで、一刻を争う重症患者の命を救うこともあるのです。

本当に救急車を必要としている方を救うため、大切な命を救うために適正利用にご協力をお願いします。

1792件と59％

この数字は、昨年の市内の救急出動件数と、搬送した方の傷病程度が軽症だった割合です。1日に約5回出動し、1696人を搬送しました。その搬送した方の半数以上は、傷病の程度が入院加療を必要としない軽症でした。

傷病程度別搬送人員



救急車の台数には限りがあります

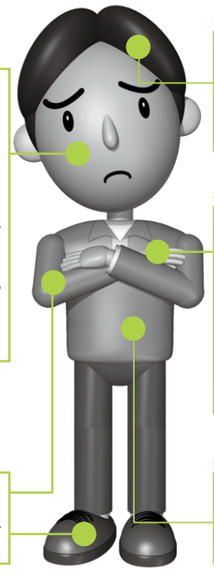
市が所有している救急車は3台あり西消防署に2台、東消防署に1台を配置しています。最寄りの消防署の救急車が出動中に119番があった場合は、もう一方の消防署から救急車が駆け付けることになります。そのため、出動件数が増加すると、出動から現場到着に要する時間も増加してしまいます。

救急車はタクシーではありません

救急車の安易な利用が増えると、「救える命」を救えなくなってしまいます。生命に危険があり、緊急に救急車を必要としている人のところに1秒でも早く駆け付けられるよう、緊急性のない場合やタクシー代わりに救急車を呼ぶことは絶対にやめてください。

ただし、救急車の利用を控えるあまりに、取り返しのつかないことになることもあります。特に左記のような症状が出た場合や、傷病者の様子や事故の状況などから、急いで病院へ連れて行ったほうが良いと思ったときには、ためらわずに119番に連絡し、救急車を呼んでください。なお、救急車が速やかに出動するためには、消防署に直接連絡するのではなく、119番に連絡することが重要です。必ず119番に連絡してください。

ためらわず救急車を呼んでほしい症状



顔
- ⦿顔半分が動きにくい、あるいはしびれる
- ⦿ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ⦿ろれつがまわりにくい、うまくはなせない
- ⦿視野がかける
- ⦿ものが突然二重に見える
- ⦿顔色が明らかに悪い

頭
- ⦿突然の激しい頭痛
- ⦿突然の高熱
- ⦿支えなしで立てないぐらい急にふらつく

胸や背中
- ⦿突然の激痛
- ⦿急な息切れ、呼吸困難
- ⦿胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2～3分続く
- ⦿痛む場所が移動する

手足
- ⦿突然のしびれ
- ⦿突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

腹
- ⦿突然の激しい腹痛
- ⦿持続する激しい腹痛
- ⦿吐血や下血がある

その他
⦿意識がない（返事がない）　⦿大量の出血を伴う外傷　⦿高所から転落
⦿食べ物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい　など

Interview

救急隊の思い

救急隊は、要請があれば「いつ、何時でも」出動します。一刻を争うような事例から明らかに適正利用に反する事例もあり、傷病者本人や家族などに適正利用についての説明や対応に苦慮する事もあります。

救急隊は常に傷病者や家族などの立場に立ち、笑顔と優しさで対応するよう心掛けています。それは、病院から帰る際に、家族などから掛けられる「ありがとう」の一言に、全てが報われるからです。仕事をして感謝をされる救急という仕事に誇りを持ち、次のような心得をもって活動しています。

【心得】

命を大切に、そして救おうという気持ちこそが命の火を消すことなく灯し続ける方法なのではないか。私たちを必要とする人々に対し、知識や技術だけでなく思いやりと優しさのある接遇で「ありがとう」と言われるような救急隊を目指して。

消防本部西消防署
藤井茂消防指令補